

このたび、神奈川県看護協会保健師職能委員会では、神奈川県で働く人々への健康支援について、地域および職域における連携をテーマに掲げ、シンポジウムを開催いたしました。産業保健師・行政保健師3名の演者による活動紹介と、来場・オンライン参加者との意見交換を行いました。「地域・職域連携での現状はどうなっているのか、どうなればよいのか、どのようにしていけば、県民の働く人たちに健康支援が行き届くのか」について、多様な立場から議論し、今後の方向性を模索しました。以下に、背景と議論のポイントをまとめます。

1. シンポジウムの主旨と提示された課題

(1) 神奈川県下の働く人の現状（2024年）

- ・ 県内事業所数は約30万ヶ所。
- ・ 従業員数50人未満の事業所が約27万ヶ所と9割を占めている。
- ・ 従業者数は約341万人。

(2) 中小企業への支援体制

- ・ 国の事業（無料）として、①産業保健総合支援センターによる窓口・相談、両立支援、研修等 ②地域産業保健センターによる小規模事業場への支援（50人未満の事業者の義務（労働安全衛生法）である健康診断結果の就業区分・意見聴取・長時間労働者（申し出）の医師面接・ストレスチェック高ストレス者（申し出）の医師面接に対応したサービス事業、保健師による保健導・保健相談等）
- ・ 事業化による健康支援として、①労働衛生機関（健診機関）による健康診断の実施・環境測定等 ②保険者による被保険者への特定健診・特定保健指導・重症化予防事業・民間サービスによる個人への事業 ③県の生活習慣病予防の保健事業（1. 主な活動の取りくみ事業として、がん検診・特定健診受診率向上、循環器・CKD重症化予防、かながわ治療と仕事の両立推進企業・地域・職域連携推進事業 ・ 心のサポーター養成研修 2. 神奈川県保険者協議会）

(3) 現状の課題

- ・ 小規模の事業所では、利用可能な支援制度が十分に認知されていない。
- ・ 産業保健の健康管理専門家の配置が少ない
- ・ 中小規模で働く人への支援は、地域と職域の連携が不可欠。
- ・ 地域職域連携の継続性を期待するためには人材育成が必要ではないか 等

2. ディスカッションから見た方向性

(1) 立場の異なる保健師同士がつながる

まずは、産業・地域・行政など立場の異なる保健師が、働く人に対してどのような活動を行っているのか」お互いを知ること、そのためのつながりを持っていく必要がある。

(2) 産業や行政とつながり、支援のしくみを理解する

「産業に関連する機関・組織等とつながる、行政とのつながりを持つ」ことが必要である。働く人・働く人の環境となる産業組織とのかかわり・しくみがどうなっているか、行政ではどうなっているか相談していく事で、働く人への支援を考えていくことができるのではないかな。

(3) 専門性向上と人材育成の場づくり

働く人、働く人の環境となる産業の理解と支援に必要なスキルの習得が図れる場、しくみが必要である。産業に関わる保健師としての専門性を発揮した支援、マンパワーの確保(未就労者、セカンドキャリア人材の活用など)につながるのではないかな。看護協会として考えていく第1歩がこの研修会となった。

(4) 地域産業保健センターの現状と連携への期待

地域産業保健センターで活動する保健師の現状の紹介があった。働く人への支援者として連携をもって活動が広がることを願いたい。

3. シンポジウムのまとめ

私たちの活動の場を広げ、専門性を発揮できる場を構築していくことができるのが職能団体であり、立場は異なっても職能として母体となる看護協会は、職域の対象となる働く人に対して貢献できる職能団体であることが確認でき心強く感じました。

来年度も地域職域の連携が継続テーマとして企画されることになりました。働く人への支援者として、連携による実践活動の発展へとつながる企画となる事を検討していきたいと思っています。

| | |
|------|--|
| 研修名 | 令和7年度 シンポジウム タイトル:「地域・職域連携による働く人への健康支援を考える」 —産業保健師・行政保健師の活動状況から、今後のあり方を模索する— <演者・パネリスト> ・椎葉倫代氏: 日鉄ソリューションズ(株) 人事本部人企画部 健康経営グループリーダー・保健師(大規模事業所の保健師活動) ・齋藤明子氏: (株)ヘルス&ライフサポート 代表取締役・保健師(中小規模事業の保健師活動) ・津島 志津子氏: 神奈川県がん・疾病対策課長 保健師(神奈川県の現状) <座長> 高清水幸美(保健師職能委員) |
| 開催日 | 令和8年1月21日(木) |
| 開催方法 | ハイブリット開催(来場&リモート) 会場 神奈川県ナースセンター研修室 |
| 開催時間 | 13:30分~16:00(所要時間 2時間半) |
| 参加人員 | 申し込み人数 73名 参加者 59名 内訳: 会員 19名 非会員 40名 職種(産業保健師 24名、保健師 16名、助産師 1名、看護師 13名、理学療法士 1名、その他 4名) |

◆2026年1月21日(水)

保健師職能委員会シンポジウム「地域・職域連携による働く人の支援を考える」とは

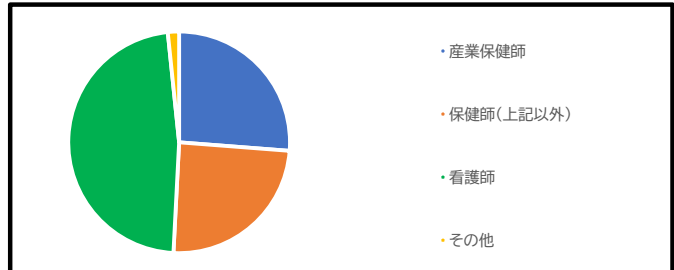
1/21(水)ハイブリッド開催

アンケート回収率 回答数 n=46

| | |
|----------|-----|
| 申込者 | 73 |
| 受講者 | 59 |
| アンケート回収 | 46 |
| アンケート回収率 | 78% |

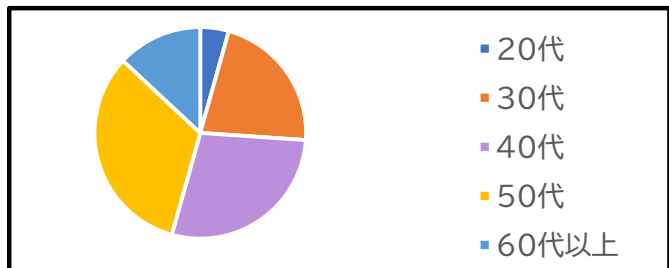
(1) 参加職種

| | |
|-----------|----|
| 産業保健師 | 16 |
| 保健師(上記以外) | 15 |
| 看護師 | 29 |
| その他 | 1 |



(2) 年代

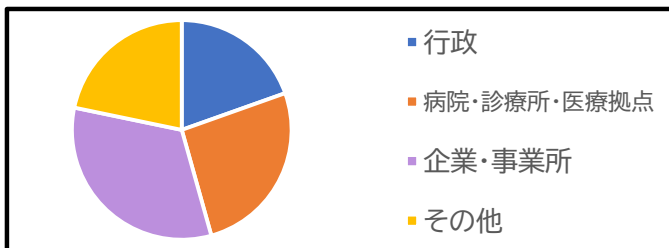
| | |
|-------|----|
| 20代 | 2 |
| 30代 | 10 |
| 40代 | 13 |
| 50代 | 15 |
| 60代以上 | 6 |



(3) 所属

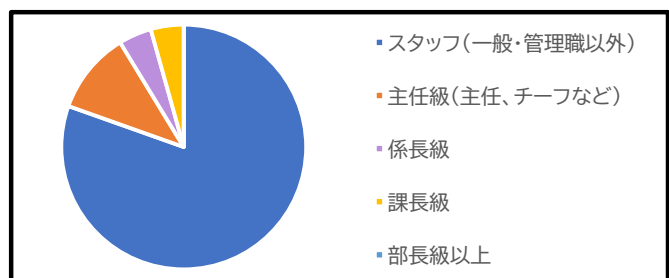
| | |
|-------------|----|
| 行政 | 9 |
| 病院・診療所・医療拠点 | 12 |
| 企業・事業所 | 15 |
| その他 | 10 |

その他・・・産業保健センター・個人事業主
地域包括支援センター



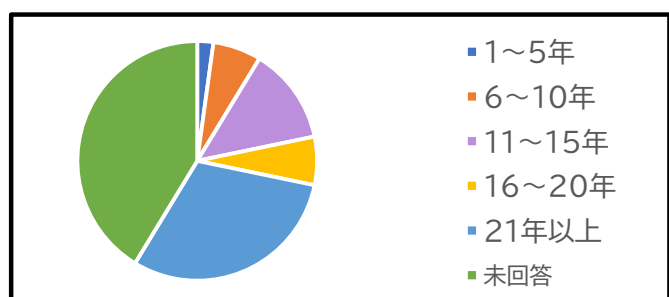
(4) 職位

| | |
|----------------|----|
| スタッフ(一般・管理職以外) | 37 |
| 主任級(主任、チーフなど) | 5 |
| 係長級 | 2 |
| 課長級 | 2 |
| 部長級以上 | 0 |



(3) 経験年数

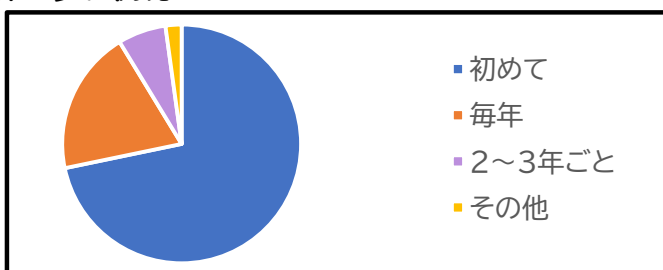
| | |
|--------|----|
| 1~5年 | 1 |
| 6~10年 | 3 |
| 11~15年 | 6 |
| 16~20年 | 3 |
| 21年以上 | 14 |
| 未回答 | 19 |



1 保健師職能委員会の企画する講演会や研修会の参加状況

| | |
|--------|----|
| 初めて | 33 |
| 毎年 | 9 |
| 2～3年ごと | 3 |
| その他 | 1 |

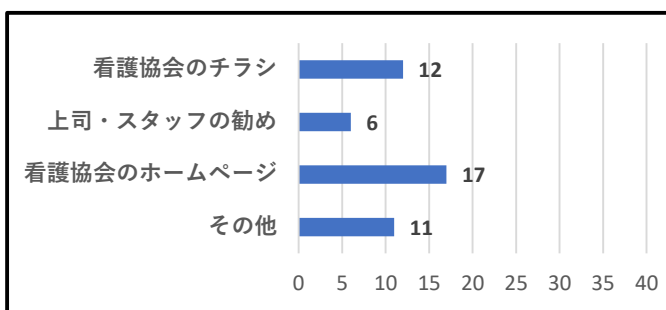
その他・・・テーマと日程によって



2 研修をどのようにして知りましたか

| | |
|-------------|----|
| 看護協会のチラシ | 12 |
| 上司・スタッフの勧め | 6 |
| 看護協会のホームページ | 17 |
| その他 | 11 |

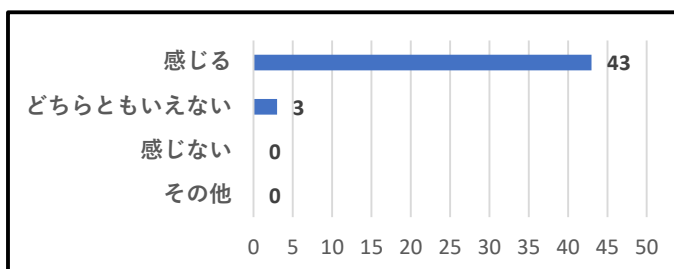
産業保健センターチラシ
保健師職能委員会からの紹介



3 研修の内容について

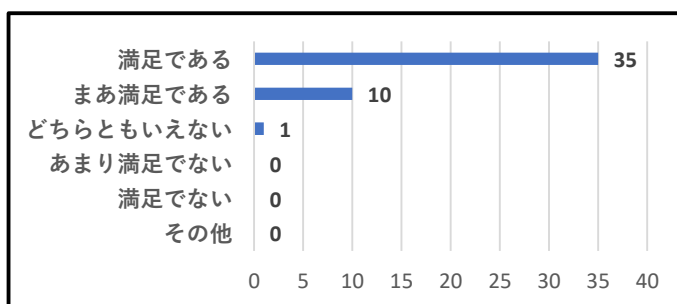
(1) 必要性を感じるものでしたか

| | |
|-----------|----|
| 感じる | 43 |
| どちらともいえない | 3 |
| 感じない | 0 |
| その他 | 0 |



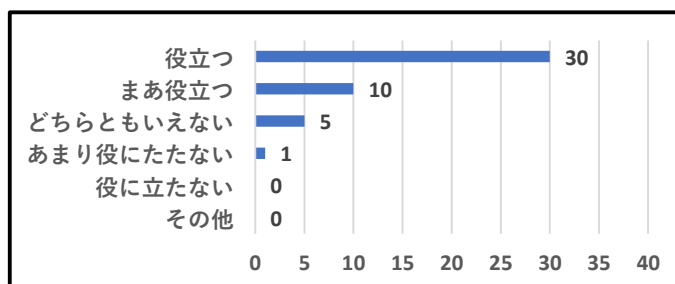
(2) 満足できるものでしたか

| | |
|-----------|----|
| 満足である | 35 |
| まあ満足である | 10 |
| どちらともいえない | 1 |
| あまり満足でない | 0 |
| 満足でない | 0 |
| その他 | 0 |



(3) 今後の職務に役立つものでしたか

| | |
|-----------|----|
| 役立つ | 30 |
| まあ役立つ | 10 |
| どちらともいえない | 5 |
| あまり役にたたない | 1 |
| 役に立たない | 0 |
| その他 | 0 |



4 研修会の感想・お気づきの点

・多様な働き方において、各分野での問題はあったかと思いましたが、多職種で歩み寄りより良い意見交換をしていく事で、あらたな繋がりから更に向上になることもあるかと思う。

・今回は他府県からのウェブ参加をさせて頂きました。地域・職域連携のシンポジウムを必要性を感じていながらもこれまで、なかなか見当たらなかった。とても貴重な意見を聴講し、今後の業務の一助となった。励みにし、日々の職域活動につなげていきたい。

・パネルディスカッション形式で、実際の取り組みや考え方を具体的に知ることができ、予防医療や早期介入の重要性について理解を深めることができた。今後、職種や勤務形態の異なる参加者にも応用しやすい事例や、医療機関における健診・外来との連携に関する視点が加わることで、より幅広い学びにつながる研修になるのではないかと。

・看護師であるが患者様が地域でどのような支援を受けてきているか知ることができ、連携の仕組みについて知ることができ、学びが多く得る事ができた。

・産業保健活動で対応しきれないケースについては、地域の保健職にヘルプを出して、対象者が健康的に社会生活が送れるように支援したい。

・企業・事業主への働きかけの仕方について参考になった。保健指導と同様に、困りごとへの対応・相談をきっかけにすることが、信頼関係を気付くことにつながり次につながる。

・地域包括支援センターの保健師として働いており、企業保健師とは関わることがほぼないが、どのようなことをしているのか知る機会となった。また、地域包括支援センター保健師として高齢者向けに地域の介護予防に努めているが、介護予防に興味のない人は予防の必要性を説明してもあまり必要性を理解してもらえず、事業への参加に繋がらない。業務を行っていく上でもっと若い年代から未病や健康に関しての必要性を理解してもらうことが大事なのではないかと考えており、現役世代と繋がりのある企業保健師等と繋がることが出来ると幅広い世代にアプローチできるのではと感じた。

・登壇された保健師の皆様のおかげで、保健師の必要性を改めて感じた。保健師を知らない病院や福祉、中小企業の事業所などの方々もまだまだいると思うので、少数精鋭ではあると思いますが、頑張っていきたい。

・他企業の活動を知る機会となりとても参考になった。AI活用のところでデータ分析ソフトをいれているとのお話がありましたがどの程度分析ができるのか、運用ソフトのご紹介、分析方法、分析データをもとにこういう計画をたてたなどの具体的な事例方法を紹介いただけると今後の活動に活かそうである。

・中小企業で保健師をしており、大規模でのストレスチェック後の高ストレス者の面談実施による再判定や、行政から企業への出張での健康教育を行っていることを知り興味深かった。

・産業保健の仕組み現状がよくわかった。地域職域連携を進めるよう言われていますが、具体的な方策のヒントになりました。また、看護協会が地域や産業で働く保健師等看護職間のつながる場になり、人材育成や人材確保など職能団体として役割を担うことが期待できると思った。

・中小規模の事業所が90%以上を占めている日本現状でいかに産業保健が重要であるか考えた。中小規模の事業所の50人未満の事業所に地産保の案内を郵送してその後その事業所に電話押しして内容の説明をして利用を進め、いくつかの事業所に利用してもらっている。地道な活動から少しずつ進めていこうと考えてる。今

・3名の先生のそれぞれお立場での発言は大変参考になった。地域・職域の協力のためには仲間づくり、人脈作りが大切であるということを研修の雰囲気でも再確認した。

5 今後、研修会でとりあげて欲しいテーマ

- ・新任産業保健師の基礎知識
- ・企業と行政が一体となったのデータ分析
- ・地域・職域連携の行政（地方）と企業のつながりの好事例について知りたい
- ・AIの活用について
- ・現任教育や学生実習のあり方について
- ・GISの活用について
- ・保健活動などのテーマもよいですが、自分自身のメンタルヘルスやリフレッシュ等につながる内容も企画
- ・外国人とのコミュニケーションは、翻訳アプリを利用して行っていますが、皆さんがどのように対応しているかを知りたい
- ・地域職域推進事業の行政の取組事例があったら聞いてみたい
- ・産業保健になると、研修会などの学ぶ機会が少なく、今回のように、他企業や他の保健師がどのような活動をしているのか、県や国の現状や動きはどうなっているのかを知る機会があるとよい
- ・職場の看護職の知識向上のためのプログラム構築について
- ・今回同様、地域職域連携について、具体的な連携事例や、実際に連携している地域・職域それぞれの保健師（担当者）によるシンポジウムを実施してほしい